

次号予告

特集 待ち行列モデルで考える—広がる領域—

| | |
|----------------------------|-------------------|
| ゲノムの中にあられた待ち行列 | 豊泉 洋 (会津大学) |
| リスク評価と待ち行列モデル | 牧本直樹 (筑波大学) |
| 大規模施設の混雑現象—待ち行列理論によるアプローチ— | 増山博之, 滝根哲哉 (京都大学) |
| 生産システムにおける様々な待ち | 中出康一 (名古屋工業大学) |
| AGVの割当て問題に対する待ち行列モデル | 山下英明 (東京都立大学) |
| キャッシュのモデル化とその応用 | 田中淳裕 (NEC) |
| TCPフロー制御における帯域共有のモデル | 石橋圭介, 川原亮一 (NTT) |
| 電話網の混雑現象と輻輳制御 | 小沢利久 (駒澤大学) |

編集後記

●今年がオリンピックの年である。アテネへ向けて、世界各国は最後の調整に余念がないところであろう。「オリンピックは参加することに意義がある」と言ったのはあのクーベルタン男爵であるが、とはいえ、参加する以上はベストの状態で最高の結果を尽くしたい、そして期待できる最高の結果を残したいというのが関係する人達の共通の心理であろう。

●最高の結果を残すには何が必要なのであろうか？試合時における、競技者の技術、経験、体力、知力、精神力はいうまでもないが、近年はそこへ至るまでの過程（トレーニング、食事、精神鍛錬等）や、気象等の予測とその対応法、臨機応変な作戦やチーム編成法までもが、キープポイントとなり、さらには、側面・後方で支援する人・もの・資金・情報までもが重要要素になってきている。まさに（考えうる最高の結果を出すという）一つの共通目標に向かっての全リソース（資源）を使った総力戦である。

●今月号の特集は「企業の変革・成長を支えるERP」である。目標こそ違うものの、持てるリソースを最大限に活用し、考えうる最高の結果を目指すという点では、企業でのERPもオリンピックと多くの共通点があるようである。ただ、世間では、「企業におけるERPプロジェクトの推進には障害が多く、結果を出すのがなかなか難しいのでは」という声を多く聞くようである。そこで今回は、そういった声を吹き飛ばして、多大な成果をあげられている企業の方々から、経験に基づく生の声を文章にさせていただいた。一つの目標に向かって如何に取り組んでいくべきか、読者諸兄にも参考になる点も多いのではないかと密かに期待している次第である。

●今年のオリンピックは野球、卓球など、従来にも増して楽しみな競技が多い。結果とともに、全資源を使った競技という視点でも注目していきたい。

(中川義之)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 杉野 隆 (国土館大学)

委員 井階美歩 (株NTTデータ), 池上敦子 (成蹊大学), 大澤義明 (筑波大学), 大村弘之 (日本電信電話株), 岡田 勇 (創価大学), 小沢利久 (駒澤大学), 住田 潮 (筑波大学), 高橋一喜 (東京ガス株), 土屋利明 (日本電信電話株), 所 健一 (財電力中央研究所), 中川義之 (キヤノンシステムソリューションズ株), 生田日崇 (専修大学), 根本俊男 (文教大学), 松村良平 (東京工業大学), 三浦英俊 (明海大学), 村井雅彦 (株東芝)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成16年6月号 第49巻 第6号 通巻522号

代表者 小笠原 暁

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 杉野 隆

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ